

「2020年に向けたITによる人間と車の融合」 ー東京オリンピック・パラリンピックに向けた交通社会を考えるー

- 主 催：ITS事業委員会
- 担当部署：インダストリ・システム部
- 参加者数：約190名

概 要

今後の自動車社会は、さまざまなIT技術が活用され、社会全体が自動車とつながる未来が期待されています。特に、プローブ情報などのビッグデータ分析・活用は、安全で安心できる、自動運転をはじめとした高度な運転支援技術の発展に大きな役割を担うものとして期待されています。

上記の観点から、ITS事業委員会では、「2020年に向けたITによる人間と車の融合」と題して、将来の交通社会のあり方を、ビッグデータの活用や自動運転といった最新の技術動向、渋滞学や心理学といった人間側からの観点もとり入れセミナーを開催しました。

はじめに、日本電気(株)妹尾様より、ビッグデータの有効性から、データ処理技術の将来性などについて講演いただきました。

自動車メーカーからは、日産自動車(株)二見様をお招きし、自動運転に関する開発状況やカメラやセンサなどのセンシング技術の活用、今後の開発における自動車の知能化などについて、講演いただきました。

今回のセミナーは、技術的な観点だけでなく、社会を形成するにあたり、人と車がどう関わっていくべきかを考える内容を取り入れました。

東京大学・西成教授は、渋滞学を専門とし、渋滞緩和に対する考え方を示すほか、人間力をどう活かして自動車社会に取り入れていくのがいいか、講演いただきました。

続いて、芝浦工大・春日教授からは、心理学の観点からドライバーと車の共生が必要なこと、国際的な自動車社会を形成するためには、様々な国と日本の交通社会がどう違うのか、倫理的、教育的観点から講演いただきました。

また、パネルディスカッションでは、2020年東京オリンピック・パラリンピック開催決定を受け、世界にアピールできる国際的な交通社会を考える内容で、討論いただきました。

参加者からは「大変有意義なセミナーだった」との声が多く、ビッグデータの活用や自動運転技術の発展とあって技術的な側面だけでなく、様々な融合による自動車社会形成に、非常に大きな期待が寄せられていると感じられるセミナーとなりました。



プログラム

○開会の挨拶

ITS事業委員会委員長 前川 誠 氏 (日本電気株)

○「ビッグデータによって次世代交通システムはどう変わるか」

妹尾 義樹 氏 (日本電気株) ビッグデータ戦略室 技術主幹

○「“考えるクルマ” と交通社会の未来」

二見 徹 氏 (日産自動車株) 企画・先行技術開発本部 技術企画部 エキスパートリーダー

○「近未来交通の姿とハード・ソフト・人」

東京大学 先端科学技術研究センター 工学系研究科航空宇宙工学専攻 (兼任) 教授 西成 活裕 氏

○「人間中心の交通社会へ -今後のITSへの期待-」

芝浦工業大学 工学部 共通学群 (心身医学・ヒューマンファクター) 教授 医学博士 春日 伸予 氏

○パネルディスカッション

「次世代の自動車社会について考える ～2020年東京オリンピックに向けた国際化と交通社会の課題～」

パネラー：上記登壇者

モデレータ：鶴原 吉郎 氏 (日経BP社 電子・機械局編集委員 日経BP未来研究所上席研究員)

○閉会の挨拶

ITS新分野研究会主査 中村 順一 氏 (株東芝)